

BGPlants トップ Web 版 BGPlants YList 植物名検索

YList トップ

簡易検索

詳細検索

分類体系

BG Plants 和名 - 学名インデックス

検索結果詳細表示

(YList)の利便性と限界

学名： *Bistorta officinalis* Delarbre subsp. *pacifica* (Petrov ex Kom.) Yonek.

和名： エゾイブキトラノオ

学名ステイタス： 標準

掲載図鑑とページ番号： (講談社・Flora of Japan)2a: 144；

文献情報 (原記載文献など) : in K.Iwats. et al., Fl. Jap. 2a: 144, in adnot. (2006).

米倉浩司

[<< 前ページに戻る >>](#)

(東北大学植物園)

Copyright K.Yonekura & T.Kajita 2003-

10 Dec. 2011

本サービスを得られた結果を公表する場合に推奨される引用形式：

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList) ,

http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2011年10月24日) .

BG Plants 和名 - 学名インデックス

YList (http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html) (米倉・梶田 2003 -)

2003年より運用を開始した日本産植物
および和名のある国外産植物の和名と
学名およびその出典と採用文献を列挙
したデータベース

YListからの成果品

山と溪谷社『絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプラント』
(2003)

北隆館『新牧野日本植物図鑑』(2008)

同『高等植物分類表』(2009)

他に、地方の植物目録などで多く使用されている

フィールドの1例

[BGPlants トップ](#) [Web 版 BGPlants](#) [YList 植物名検索](#)
[YList トップ](#) [簡易検索](#) [詳細検索](#) [分類体系](#)

検索結果詳細表示

学名： *Bistorta officinalis* Delarbre subsp. *pacifica* (Petrov ex Kom.) Yonek.

和名： エゾイブキトラノオ

学名ステイタス： 標準

掲載図鑑とページ番号： (講談社・Flora of Japan)2a: 144；

文献情報 (原記載文献など)： in K.Iwats. et al., Fl. Jap. 2a: 144, in adnot. (2006).

[<← 前ページに戻る >](#)

Copyright K.Yonekura & T.Kajita 2003-

本サービスをで得られた結果を公表する場合に推奨される引用形式：

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList) ,

http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2011年10月24日) .

YListをつくったきっかけ

動機付け1. 1998年当時の個人的動機

文献や標本に容易にアクセスできない環境
(例: 八甲田山植物実験所)において研究を続けるには
どうしたらいいか？

一般的な図鑑(『日本の野生植物』『原色日本植物図鑑』
『日本植物誌』『Flora of Japan』では全然たりない)

ラベル作成のために図鑑の学名と和名とを抜き出した
データベース(研究室で作成されていたもの)

→ 物足りない・・・

(日本全土をカバーしていない, 帰化植物が少ない,
学名が古くなりつつある, etc.)

YListをつくったきっかけ

日本全土にどれだけの植物が分布しているのか？現時点での数がわからないか？

日本全土の植物を網羅した
最新の植物誌が存在しない
1998年当時合弁花とシダのみ、
2011年の段階でも単子葉植物は未完

環境庁の『自然環境保全基礎調査植物目録』(1987, 1994)
日本全土の植物が網羅されている

問題点：著者名や出典がない，グループによっては学名の取り扱いに不統一な点が目立つ

YListをつくったきっかけ

動機付け2. 日本周辺のタデ科の分類学的検討

タデ科植物の分類: 地域ごとにバラバラに行われる

東アジア全体: Steward (1930), Rechinger (1949)

沖縄: 『琉球植物誌』(1971), 『Flora of Okinawa』(1976)

朝鮮半島: Flora Coreana ('1996'(2001); 北朝鮮)

極東ロシア: 『ソ連極東の維管束植物』(Tzvelev 1991)

中国: 『中国植物誌』(1998) 『Flora of China』(2003)

台湾: 『Flora of Taiwan』(1978, 1993)

インドネシア地域: Danser (1927) ネパール(Hara 1982)

ブータン(Grierson and Long 1983)

北アメリカ: 『Flora of North America』(2005)

YListをつくったきっかけ

地域・文献による学名の不一致をどうする？

例：ハルタデ (タデ科)

Polygonum persicaria L.

日本：北村・村田 (1962), 大井・北川 (1983)

中国：中国植物誌 (1998), Flora of China (2003)

台湾：Flora of Taiwan (1976, 1993)

Persicaria vulgaris Webb et Moq.

日本：日本の野生植物 (1982)

朝鮮：韓国植物名考 (1996)

Persicaria mitis Gilib.

朝鮮：朝鮮植物誌 ('1996' (2001))

YListをつくったきっかけ

地域・文献による学名の不一致をどうする？

例：ハルタデ (タデ科)

Persicaria maculata (Raf.) Gray および

P. extremiorientalis (Worosch.) Tzvelev

ロシア：ソ連極東植物誌 (1991)

Persicaria maculosa Gray

subsp. *hirticaulis* (Danser) S.Ekman & Knutsson

var. *pubescens* (Makino) Yonek.

日本：Flora of Japan IIa (2006)

YListをつくったきっかけ

地域・文献による学名の不一致をどうする？

例：ハルタデ (タデ科)

Polygonum persicaria L.

Persicaria vulgaris Webb et Moq.

Persicaria mitis Gilib.

Persicaria maculata (Raf.) Gray

P. extremiorientalis (Worosch.) Tzvelev

Persicaria maculosa Gray var.

専門家以外が見たら同じものをさすのか
どうかわからない

YListをつくったきっかけ

便利な植物集覧(Systematic Enumeration)

- 様々な学名の異同をまとめ、一定の体系の下で**正名**と**異名**およびその**出典**を示したもの
- 特定の植物が各文献でどのように扱われているかを一覧できる
 - 集覧の著者と異なる分類学的見解に立つ場合でも、その場合の正名を選択できる
 - 不注意により余計な名(重複名など発表時点で非合法となる名)を発表せずにすむ

YListをつくったきっかけ

便利な植物集覧(Systematic Enumeration)

日本全土を対象にしたものは松村『帝国植物名鑑』(1904, 1905, 1912)およびその補遺ともいえる牧野・根本『日本植物集覧』(1925, 31), 根本(1936)のみ

→最近のものはない

原(1948, 1952, 1954) - 屋久島以北の双子葉植物の2/3程度, タデ科は含まれない

中池(1971他): 日本産シダ植物

島袋『琉球列島維管束植物集覧』(1990, 1997)

YListをつくったきっかけ

日本全国の維管束植物の種を網羅した

総覧がほしい・・・

出発点は研究室で作成されていた

ラベル作成のためのデータベース

[和名と学名および科名の対応を示したただけのもの]

和名

学名

科名

例: ハナタデ \equiv *Persicaria posumbu* Polygonaceae
ヤブタデ \simeq (Buch.-Ham. ex D.Don) H.Gross

どうすれば総覧形式に変えられるか？

YListが一応完成するまで

和名(見出し) - 学名 - 科名の対応が基本

[和名] → [標準和名] と [それ以外の別名] に分割
同じ植物に対応する和名を1つにするため
別名を見出しとするレコードを削除

[学名] → これに[文献情報] [掲載図鑑と頁番号]
[学名ステイタス] を追加 → [出版年] を追加
異名のレコードは同じ和名に対応する「標準」
学名(採用された学名)と[学名ステイタス] で区別,
他は「標準」学名に同じ

[文献情報] 原発表文献 → 採用文献 → タイプ情報

YListが一応完成するまで

- [科名]→[科和名][科学名][科コード]に2分割し,
学名はさらに[Engler科名][Cronquist科名]
およびそれぞれに科コードを付与
(並べ替えの便宜のため)
→別にこれらの項目の対応をデータベース化し,
科和名をリンクさせることによって, 和名入力に
よって自動的に他の項目が入るようにする

これ以外に, 注釈や修正の有無などを記入するための[Note], 自生・非自生の区別を示すための[生態]のフィールドを追加

YListが一応完成するまで

どの範囲の文献から学名を採録するか？

1998～
2002

学術目的でよく使用されている図鑑の中で最も古く刊行された保育社『原色日本植物図鑑』(草本編1が1957年)を出発点とし、それ以降に刊行された図鑑や植物誌に現れる全ての学名を採録



保育社 『原色日本植物図鑑』『原色日本羊歯植物図鑑』
『原色日本帰化植物図鑑』→『原色日本蕨苔類図鑑』
平凡社 『日本の野生植物』→『日本の帰化植物』
講談社 『Flora of Japan』
沖縄, 小笠原の植物も植物誌から別途入力

至文堂 『新日本植物誌』(顕花編, シダ編) →途中で追加

YListが一応完成するまで

入力にあたっての注意事項

和名や著者名の綴りや略記法の標準化

分類学的取り扱いの一貫性を保つ

学名の正当性や合法性, 著者名の引用に関しては
国際植物命名規約の最新版の規則を厳密に適用
「標準」として採用された属や種の取り扱いが
データベースの中で一貫するようにチェック

最新の分類学的見解を反映させる一方で
一貫性が破られないようにバランスを保つ

新組合せが必要と考えられるがすぐに結論が出そうにない
学名に関しては, [学名ステイタス]の項目で「異分類」と
表示し, 組合せの出現を待って訂正を行う

YListが一応完成するまで

1998 科の和名 - 学名 - 科コードデータベース作成

1998～ [文献情報]の入力

入力のスピードを優先させるため最初は孫引きに頼る
→原典に端からあたって欠落部分を少しずつ埋めていく

1999～ 和名のある栽培植物のレコードを加え始める
朝日百科『植物の世界』, 北隆館『牧野日本植物図鑑』,
その他樹木図鑑などから順次採録

周辺文献(新たな論文, 周辺地域の植物誌)
からの採録を平行して行う

<日本にある植物が海外でどう分類学的に
取り扱われているかを比較概観できるように>
<最新の情報を手元に置いておけるように>

YListが一応完成するまで

2000～ 個人的に作成していたデータベースの
公開計画が持ち上がる(梶田忠氏の勧めで)

BG Plantsプロジェクト(植物園で栽培されている
植物の一元的管理のためのデータベースとして活用)

公開のための使い勝手を急遽考えることに
何を追加すれば便利だろうか？

1. 主要植物誌の出現ページを別に表示する
2. 自生, 非自生の区別をする
3. 学名の合法性や出版年を表示する
→これらのためのフィールドを追加

至文堂『新日本植物誌』の植物名を急遽採録

YListの公開(2003)

公開のためのHP形式は梶田忠氏の設計による

簡易検索(和名⇔学名検

索)ROPICOS (ミズーリ植物園の植物データベース)に類似

詳細検索

部分一致検索も可

分類群の絞り込みも可

(上位分類群, 自生種のみ, etc.)

植物リスト作成のためのオプション

(分類群(Engler / Cronquist)順配列に従って出力

[BGPlants トップ](#) [Web 版 BGPlants](#) [YList 植物名検索](#)

[YList トップ](#)

[簡易検索](#)

[詳細検索](#)

[分類体系](#)

Fine Search

詳細検索のページ

検索語の指定

種名 (Species Name) が を含む (大文字・小文字を区別)

そして(AND)
NOT)

または(OR)

...ではない(AND)

種名 (Species Name) が を含む (大文字・小文字を区別)

そして(AND)
NOT)

または(OR)

...ではない(AND)

種名 (Species Name) が を含む (大文字・小文字を区別)

[検索のコツ](#)(前方一致検索や、部分文字列検索、特殊文字検索に関する説明)

検索開始

リセット

検索範囲の指定

[検索のコツ](#)(前方一致検索や、部分文字列検索、特殊文字検索に関する説明)

検索開始

リセット

検索範囲の指定

全データ (選択されると下段の選択は無視されます。また検索に時間がかかります) or

コケ植物 and シダ植物 and 裸子植物 and 被子植物

表示項目の指定

全て (チェックされていると下段の選択は無視されます。) or

シノニムを表示 図鑑 文献 ノート 生態情報
日本産のみ

科名の表示順

1. コケ植物 2. シダ植物 3. 裸子植物 4. 被子植物
 a. 平凡社・コケ a. J.Reveal a. J.Revel a. クロンキスト
 b. 裳華房 b. 裳華房 b. 裳華房 b. 新エングラ

(注：科名分類順の詳細は「[分類体系](#)」のページをご覧ください)

YListで検索できること

和名のついている植物に対して

戦後の文献で使用されている学名とその出典
一部の分類群については基礎異名およびタイプ
更新によって最新の情報に接することが可能

所属する科名(Engler; Cronquist; APG(III)(工事中))

学名に関して

特定の語を綴りの中に含む学名一覧
特定の上位分類群に属する分類群一覧
(自生／帰化／栽培／外国産での絞り込みも可)
特定の年に発表された新学名一覧
特定地域から記載された分類群(ただし全てではない)

YListで検索できないこと

日本産植物の種の数(分類群数ではない)
変種以上の分類群数

戦前の文献で使われたが戦後使用されて
いない学名 ←しばしば優先権の関係で重要

同じ和名(標準和名以外も含む)がつけられた
植物一覧(例えばスズメノヒエ(イグサ科/イネ科))

原因:採録された学名のランクの不統一性

(ランクや雑種を区別せず同じ形式のフィールドに入力)

和名のランクのあいまいさ

(ある種に対応する和名が,使われる文脈によっては
種全体またはその種内分類群の1つのいずれにも使われる)

和名のランクのあいまいさが 問題になる場合

例：ハルタデ(タデ科)

Persicaria maculosa Gray

subsp. *hirticaulis*

(Danser) S.Ekman et T.Knutsson

var. *pubescens* (Makino) Yonek.

和名のみでは区別不可

種

亜種(vs. ssp. *maculosa*)

変種(vs. var. *amblyophylla*)

YListでは変種ランクまで含めた名が「標準」

亜種ランクの名が「広義」で収録

しかし種ランクだけの名はなく、

Persicaria maculosa subsp. *maculosa*が

ヨウシュハルタデ(帰)として収録

それぞれのランクに対応する「ハルタデ」が使われうる

YListからそのまま出力して リストをつくと・・・

例：ハナタデ *Persicaria posumbu*

(Buch.-Ham. ex D.Don) H.Gross

ホソバハナタデ *Persicaria posumbu* (Buch.-Ham. ex

D.Don) H.Gross var. *stenophylla* (Makino)

Yonek. et H.Ohashi

この両者を並列させる場合，当然前者には
「var. *posumbu*」をつけなければならないが，
YListにはこれをつけた学名は収録されていない
(単に[文献情報]でそれをつけた文献をその旨表示するのみ)

リスト化の過程でランクをそろえるなどの加工が必須
今の所解決のための妙案なし

利用者からのフィードバック

抜けている分類群や出典
綴りの間違い・・・などの指摘
最新の情報の紹介
レコード追加の要望・・・etc.

現在進めていること

APGIII体系(2009)への対応

APGII体系での科については2009年までに作成,
『高等植物分類表』(2009)作成に利用

→同年にAPGIII体系が発表されたために再変更中

和名のついでいる外国産種の追加, それに関連して
既存レコードに中国(台湾)名や韓国名を追加
(現在シダ, 裸子, 双子葉植物の3/4まで完了, 単子葉はまだ))



和名の重複使用を避けるようにするため

(例: 帰化植物に対する新和名の問題)

国外の名前から検索できるようにするため

YListに入っている 日本産自生維管束植物の数は？

2011年12月9日現在：

レコード数**33776**件，うち標準19368件，異分類148件

コケを除いて標準17482件+異分類142件

(うち外国産種3537+47件，栽培種2902+5件)

これらを除くと11043+90件=11133件

(うち帰化種1559+3件，不明種12件)

帰化種を除くと9484+87件=9571件

雑種(学名中に「x」を含むもの)= 907+13件

これを除いて**8651**件が日本産自生植物(品種以上)

YListに入っている 日本産自生維管束植物の数は？

前ページの操作で8651件が日本産自生植物(品種以上)
ここまでは何とか機械的にできるが
ここからは地道に数えなければならない

品種ランクの標準名 : 1561件
同 異分類名 : 32件

これを除いて
変種以上の日本産自生維管束植物は

7058 種類